

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

私を

格

知

脱





『妖魔』
それは太古より
人の世を脅かし存在

妖気を操り
人知を超えた現象を
起こし害をなす

しかし妖魔に対抗し
人の世を守護する
人間たちが居る

『退魔師』

そして
代々退魔を
生業としてきた
由緒正しき家系

そこに
天才女退魔師がいた





はあゝ…
やっと見つけた

あんたねえ？
近ごろ退魔師を
襲ってる妖魔は…

榊 沙羅
(○6歳)

榊家の分家
沙羅の補助役
榊 和央
(○6歳)

まったく…こんな
ちっこい妖魔に手こずる
なんて…最近の退魔師は
たるんでんじゃないの？

この私が出るハメに
なったじゃない！

天才の私が
こんなチビに
負けるとか
ありえない

気を付けるに
越したことは無いよ

はあ？

沙羅ちゃん気を付けて…
こいつに何人もの退魔師が
やられてる…しかも
魂が抜けたような状態に
なって原因は不明

昔からあんたは
私の何を見てきたの？

こんなザコ妖魔
余裕だから

ひっ：やめて！
やめて：ください！
おっ：お願いします！

お尻から……出ちゃうからツ!!

天才の私が何で…んおっ!?
なにか…出たら…いぎっ
いけないものが出ちゃう
気がするから…あッあッ

嫌だ嫌だああッ！





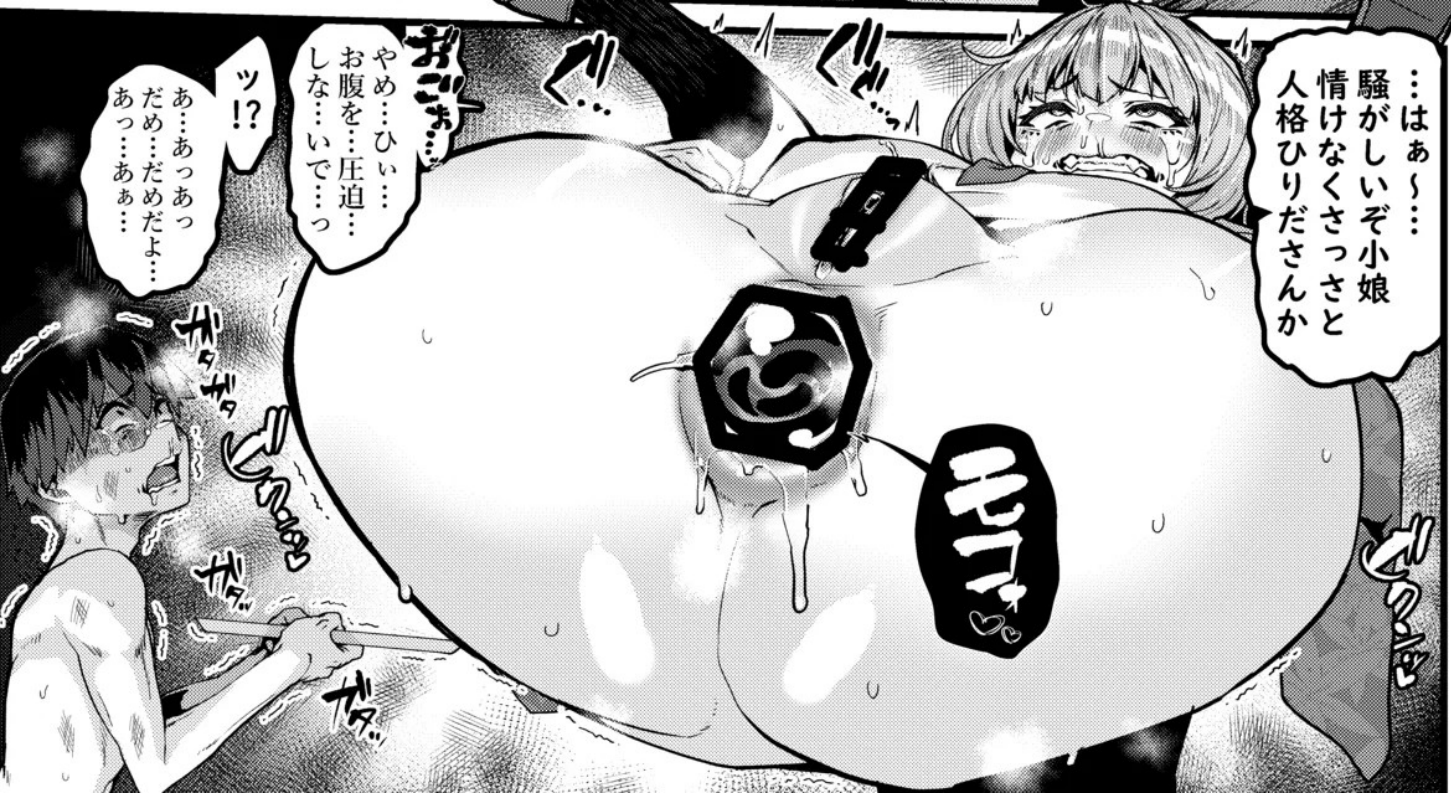
天才退魔師様が懇願
までして情けないのゝ
さっきの勢いは
どうしたのかえ？

さて…小僧
しっかりその盆を
持っておれよ？

菊門から出た
小娘が地面に
散らばるぞ？

かつ和…夾…
たす…助けて…
助け…てよ…っ

もう…限界…
限界なのぉ…



…はあ…
騒がしいぞ小娘
情けなくさっさと
人格ひりださんか

やめ…ひい…
お腹を…圧迫…
しな…いで…っ

あ…あっあっ
だめ…だめだよ…
あっ…ああ…

ツ!?



ぷっ…下品な
音を出しよる…
情けない貴様に
良く合う音だ
あはは！

五百年を生きる大妖魔である
この『那鬼』様に舐めた真似を
するからこうなるのだ

この「カラ」の肉体は
大量の霊力を秘めて
おるな…

霊力は吸い上げて…
ふむ容姿も申し分ない
妾の愛玩用にでもするか

かかっ
本当に人格以外は
才が溢れてるな貴様！



さて…その
人格の方だが…

沙羅…ちゃん…っ
沙羅ちゃん…っ

ごめんなさい…
ごめんなさい…
僕が弱かったばっかりに
沙羅ちゃんが…こんな…

シッ…あ…あ…あ…







んゝそれを
治めたいのか？
それならば…

…えっちよつと
あんたそれ…！

ッ!?

自分自身の身体を
使って鎮めればよからう♡



そんなこと…いたつ
なに…凄い脈打ってる…
なんなのよいったい！

見ないで…
沙羅ちゃん…っ

それにだ…

この口に突っ込み
舌の上に擦りつけたら
さぞ気持ちいい
のではないか？

唾液でぬるぬると…
そして口内の熱に
包まれたらどうなるか…
想像してみるがいい

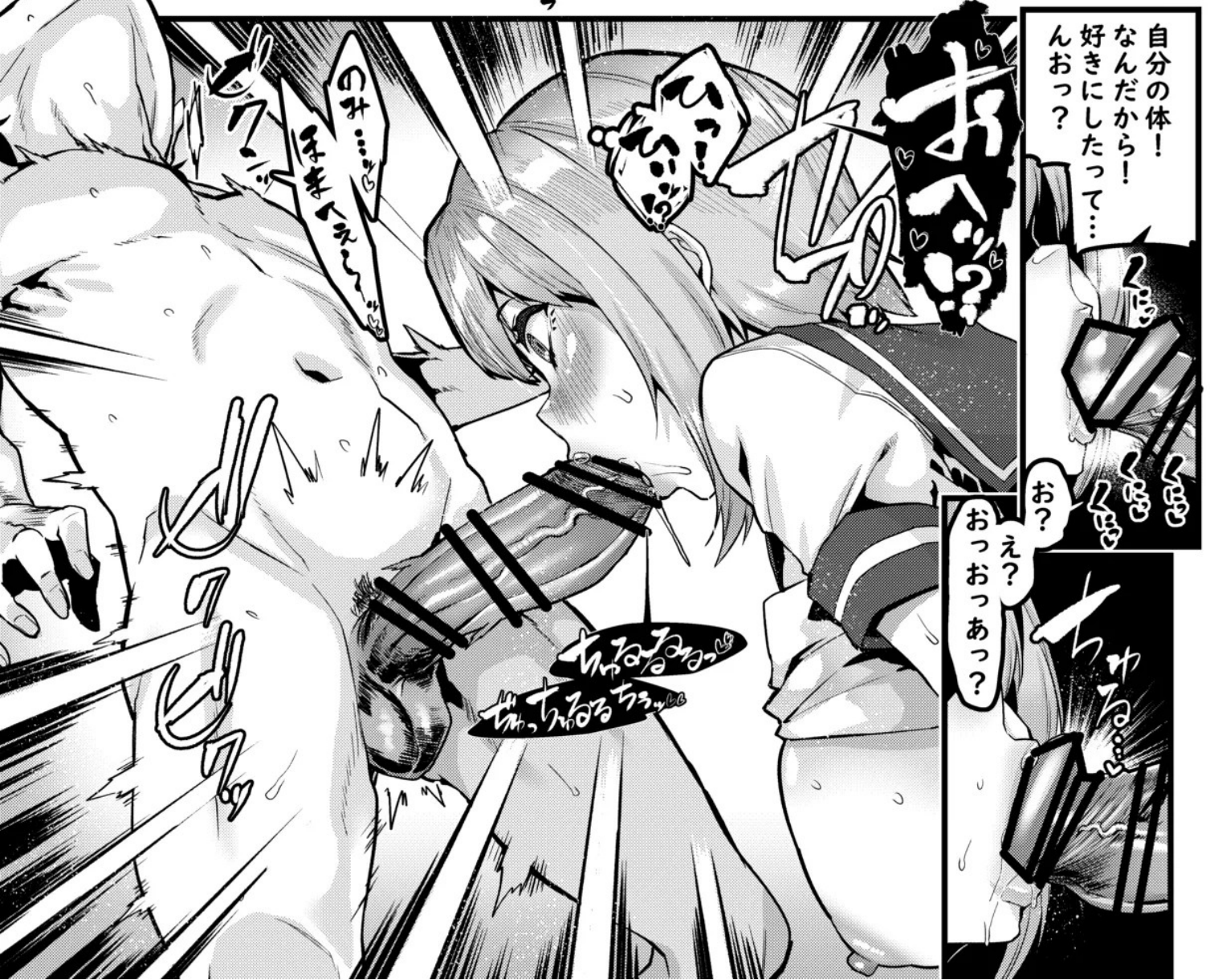
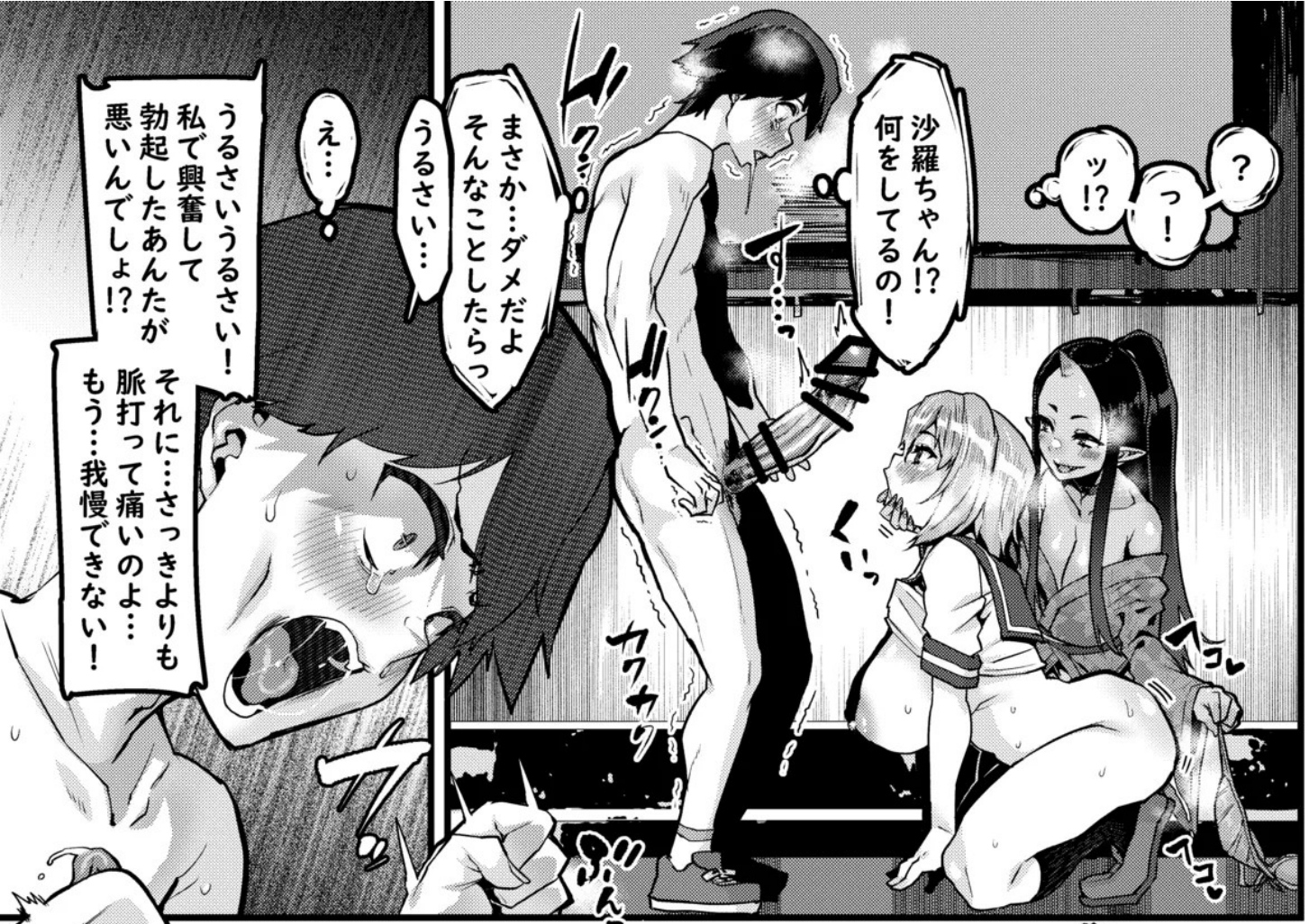
今にもはちきれそうな
それを入れた快感を

女のお前には
味わえない未知の快感
なのだぞ…？

はっはっは…？

は？私の体…はっは…







つまりだ…とんでもない
ど助平で小僧のマラを
気に入ったようだ♡

ほ…すごいのお
意識は無いはずだが…
身体が本能で動いている
ということか…



これ…ヤバ…
沙羅ちゃん…っ

ひ…た…
ひたが…なめ
舐めてるう…っ♡



おっ



そうだよ…!
沙羅ちゃんはそんな
人間じゃない…っ

はあ…はあ…ツ
そんなの違う…ツ
わたしがそんな…!
こんなの抜いて…



沙羅ちゃん…
今すぐ抜いて…



じ…

あっははっ！
快樂に耐え切れず
突っ込みおった！

沙羅…ちゃん…
なんで…うあっ
身体が…勝手に…

え…？

身体が勝手に…
身体が勝手に…
身体勝手に動いたッ
どうなってんのよ
あなたの身体！
あんたが悪いの！

私のせいじゃないッ
私の…せいじゃない!!

私の…
ぐ…っ!?
え…なんか
ひっひっ出そう!
やだ怖い…これ
どうなるの和央!?
ぬっ抜かな…

うあ…!!

カクッ

カクッ

カクッ

カクッ

カクッ

カクッ

カクッ

カクッ

カクッ

カクッ

カクッ

カクッ

カクッ

カクッ



自身の口の中は
さぞ気持ち良かった
のだろうな…ははっ

それで初射精は
どうだったかのう
まあ吐き出した
精液の量を見れば
言うことは無いな♡



ああっ情けないっ
情けない天才様
ではないかっ♡

言葉にならぬか♡
しかし…
なんてひどい顔で
呆けておるのだっ



ぜん…え…?

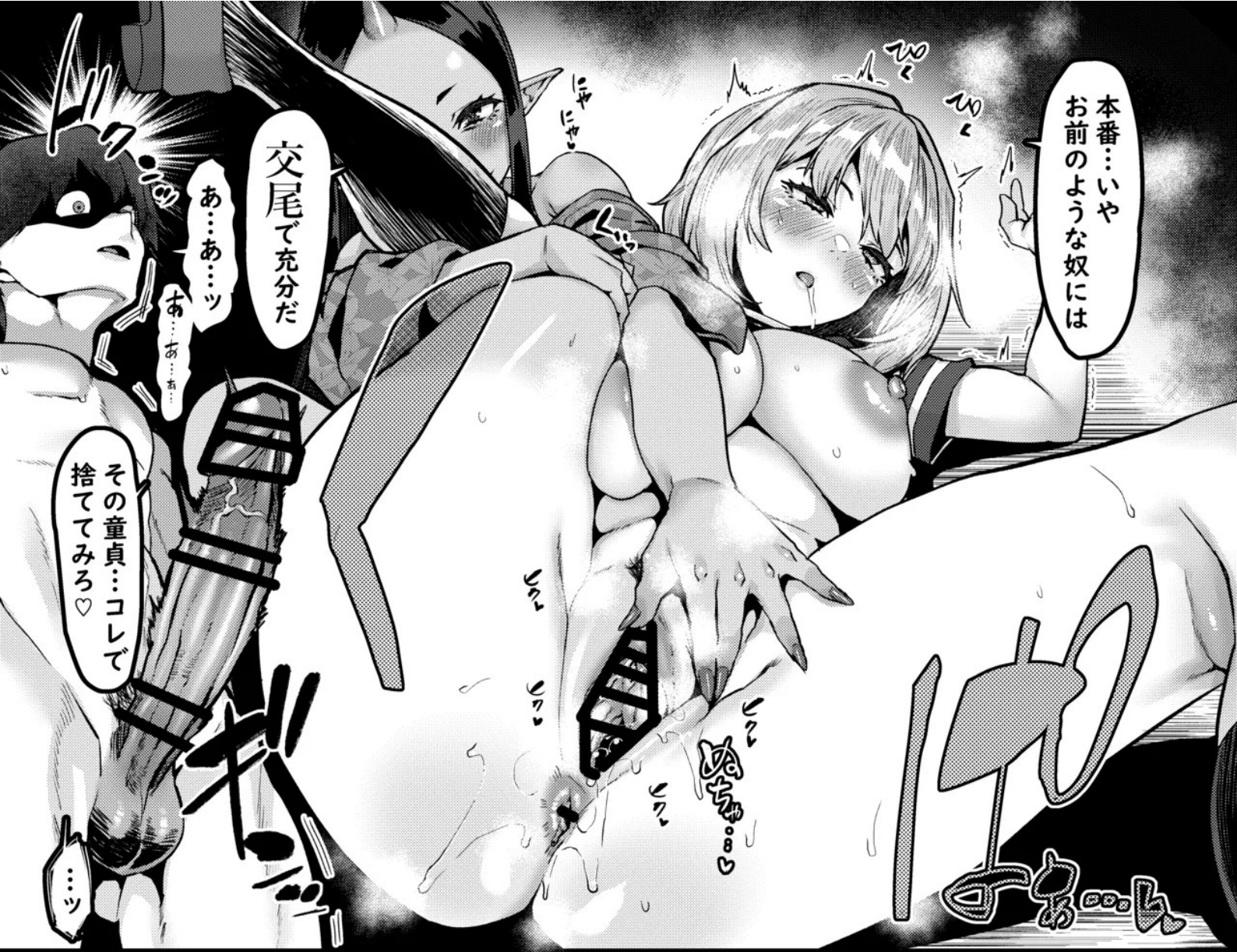
前戯で終わっては
つまらないからのう



…勃起はまだ
静まっておらん

ふえ…?

いいぞっいいぞ!
お前の尊厳を
弄ぶの想像以上に
良い余興だ♡



本番…いや
お前のような奴には

交尾で充分だ

あ…あ…ッ
あ…あ…

その童貞…コレで
捨ててみる♡



だっダメだよ！
これ以上は
絶対駄目！



それに…こんな形で
沙羅ちゃんとの
はっ初めてをする
なんて僕はやだよ!!



僕は…僕は！
天才だけど努力を
怠らない…

気は強いけど
やっ優しさを
持つてる…

そんな君が…!!
誰かの意思で
無理矢理する
なんて…

………
和央…私は
お前と…

沙羅ちゃん…っ



あっははは！
小娘やりおった！
盛った淫乱め♡

沙羅ちゃん！？
沙羅ちゃ…

おんおん
おんおん
おんおん

ハッ
あ
あ

ハッ
ハッ
ハッ

ハッ
ハッ
ハッ



なんて下品な交尾
やはり獣と変わらん
先程の凛々しさなぞ
どこへ行ったのやら♪

脳が溶けちゃうっ
頭真っ白になるうッ
マンコっふへっ♡
これきもっちいい♡

ひっひいっ♡
すっすご…
すごおっ♡

肉が…みっちり
吸い付いて…締まるう♡
あぐっ飲み込まれちゃうう♡





沙羅…ちゃん…!!
こんなことやめてっ
それに…あっうあ!
もう出ちゃう…ッ
そんなにしたら!

どうせ私たちは
セックスするんだから
今ヤッたって一緒にしょ!?

それに出そうに
なったら抜けば
いいんだから!
あんたは黙って
悶えてなさいッ

そんな…ッ

…喚いてないで
はよ射精せんか♡

急に締まって…!!
これスゴッスゴッ♡

また…出ッ
ぬっ抜いて…!!
ナ力は駄目…!!





ダメなのに…全然
腰止まらないんだけど！
うひっ何なのよこれっ♡

こんなの快楽の
暴力じゃない…！
これを味わったら
止められなくなる♡

ああ…すごい私の身体…
スベスベで柔らかくて…
指が…んっ沈む…♡

もう全てが
気持ちいい…♡



この体とセックス
するなんて性暴○…
レ○プと一緒によ…♡
…っ!?
何を言ってる…
そんなこと…ッ

うるさい！
和央あゝもっど…
私を感じる♡
…あ…
沙羅ちゃんか…
入り込んで…♡



………これ
盛り猿めが
もう充分だろ？
終いだ終い

はあゝまた出しおったか
本当に猿だな貴様はっ♡

あまり汚すでないぞ
この後は妾が色々
楽しむのだからな

ああ…そんな…
もうどうにも…♡







思い出にやらせてくれて
本当ありがとうね

ぐっくう…
おのれえ…ツ

あんたのお陰よ？
いやゝ見ただけで術が
分かつちやう天才の私凄い♡

流石だよ
沙羅ちゃん！

油断させて
こんな凄い手が
あったなんて！

これで妖魔も
倒せるし
僕らも元に
戻れるね！

く…まづい…っ
だが術はまだ半端な
出来だ…これなら…
人格が飛び出すのを
阻止は出来る…っ



はあ？
元に戻る？
倒す？

え…
!!?

私はこの妖魔…
那鬼のスケべな身体を
味わいたいだけ♡

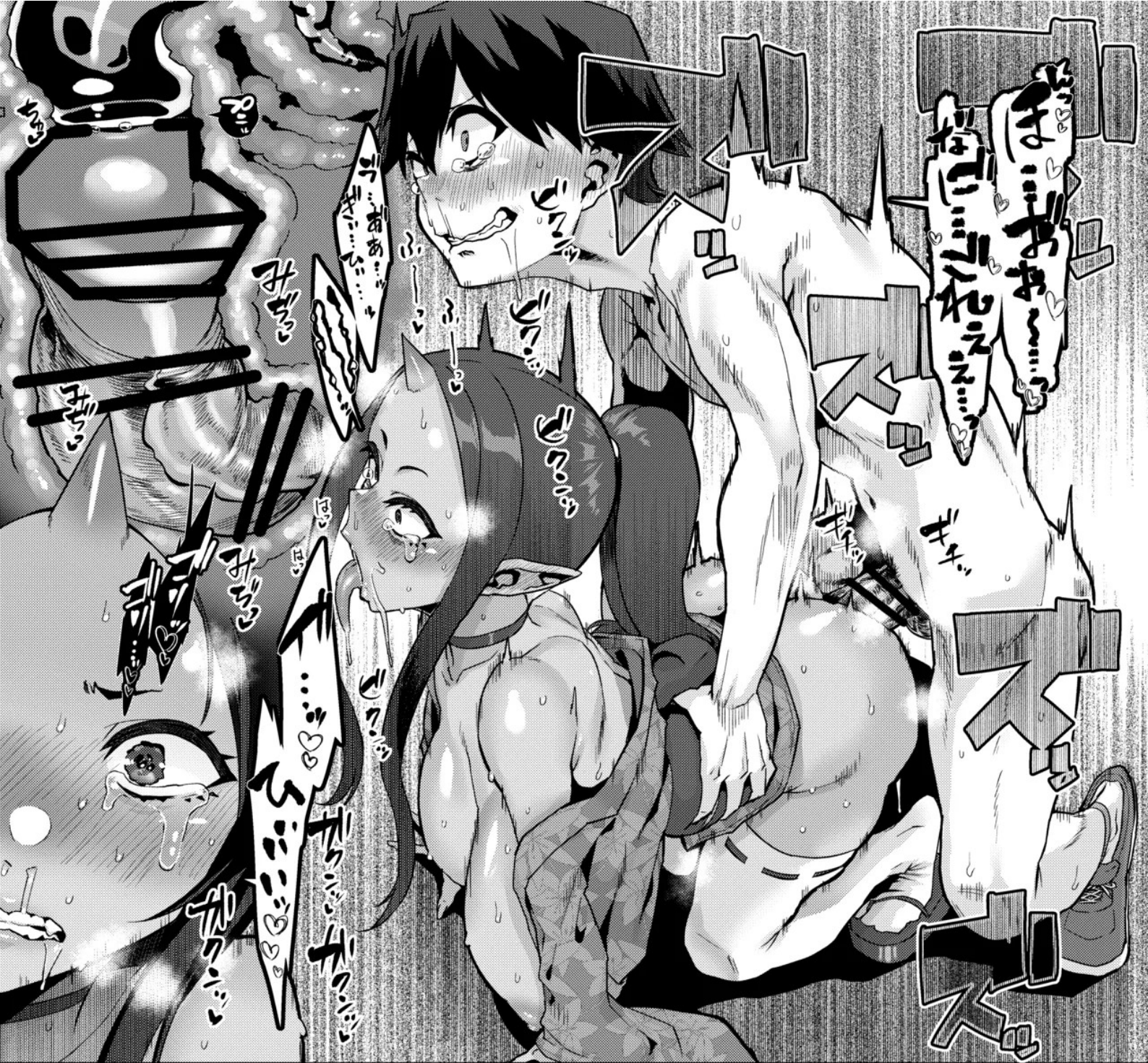
…え…
沙羅ちゃん？
何言って…

デカイ胸と尻を
私の目の前で
揺らしてたらさ…
チンポ突っ込み
たくなるでしょ♡

…その為に五百年かけた
妾の術をいとも容易く
真似たというのか…？

ツ!!?
待て待て!
ふざけるな!!

そんな理由で
妾の術を!
妾の身体を…
くそっやめ…っ





那鬼…あんた
最っ高に気持ちいいよ♡
あんたのケツ穴
入口は凄くキツいの
中はふわふわ♡

なのにしっかりと肉壁が
絡んできて…チンコの
喜ばせ方を分かってる♡



もう止めて！
一方的に
感覚だけ…
狂いそう
だよ！

もう元…
うるさいっ
あんたは大人しく
私に犯されてろっ♡

私の方が大妖怪を
玩具にしちゃったよ？
ねえどんな気持ち？

このだらしない
胸が…あ…
指に吸い付くっ



このっこのっ
色狂いの猿めッ！
自尊心だけでは
なく妾のはじめ…
また…
こみあげてきたッ
これ出るっ出るっ♡

ひいっやめッ
これ以上刺激
したら本当に
人格が出てし
ちゃうラッ♡



んあっ♡
抜けちゃった...

なっ舐めるな...
なめるなあ...んぐっ♡

舐めるなって
そんな情けない恰好で
何を言ってるの？

うっうるさい...ぐっ
妾は...五百年...も
生きた...大...妖魔...

こんな...ぎっ
こんなものっ
すぐ

さっ沙羅ちゃんっ!?
何をして...っ

先だけに...

いっっしやい♡



えっちよつと
大妖魔さま!?

あれだけ私を煽って
自分は処女だったの!?
私のために五百年も
処女取っておいてくれて
ありがとう♡♡

妾のが…こんな…
貧弱な餓鬼らに…ッ
こんな…こんなの…
認めぬ…認めぬぞ!



おっお…うねる…♡
ヌルヌルで…変則的に
しっ搾り上げられて…♡

こっちも
スゴ…♡

これ…以上は…ッ
頼む…出てしまっッ!
全部っ妾の…人格がッ!!

もうっ耐えられ…
出る出てしまっッ
こんな惨めな姿で…ッ





…ふう…
気持ち良いけど
大して反応がないと
ちよつと飽きちゃかな

…こつ小娘が…ッ
散々に妾を弄んで
その…言い草…!

…もう…ふう…よい
気は済んだのだろう…
色惚け猿め…もう
抵抗する力もないわ

覚悟はできている
さあ…さっさと
妾を殺すがいい…

はあ？
何言ってるの？



まだ遊ぶに
決まってる
じゃない♡

…は？



はあ…はあ…ッ
人格排出…クセに
なったかも…♡

自分を排出しながらの
フェラ…最高っ♡



これだけ拡げれば
充分よね…よしっ



う…あ…っ！
ふふ…やば…♡

出る出るっ♡



小娘!
どういふつもりで
妾を小僧の身体に
残し...え...?



あ...あ...ああ!
どっとうして
沙羅ちゃんっ!?



...うまく戻れたわね
うわべトベト...♡



ちよつとさ
女の身体の方で
遊んでみたく
なったからさ♪

ん?
...ああ

うそ...だ...

は...は...

は...は...

は...は...

は...は...



